

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円はリスク回避の動きから上値の重い展開か

[5月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	5月9日～5月13日				
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	130.36	131.35(9)	127.52(12)	128.71	-1.85
ユーロ・ドル	1.0550	1.0593(9)	1.0354(12)	1.0389	-0.0162
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,427.65	-575.91	日本10年債利回り	0.245	+0.001
ダウ平均株価	31,730.30	-1169.07	米10年債利回り	2.848	-0.279
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 16日 英5月ライトムーブ住宅価格
中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高
ユーロ圏3月貿易収支
米5月NY連銀製造業景気指数
カナダ3月製造業出荷、カナダ3月卸売上高
米3月対米証券投資
- 17日 英4月雇用統計
ユーロ圏第1四半期域内総生産(GDP)改定値
米4月小売売上高
米4月鉱工業生産・設備稼働率
- 18日 日本第1四半期国内総生産(GDP)1次速報
日本3月鉱工業生産指数
英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、英4月小売物価指数
ユーロ圏4月消費者物価指数
米4月住宅着工・許可件数
カナダ4月消費者物価指数
- 19日 NZ第1四半期生産者物価指数
日本4月貿易収支、日本3月機械受注高
豪4月雇用統計
ユーロ圏3月経常収支
カナダ4月鉱工業製品価格
米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数
米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数
- 20日 NZ4月貿易収支
日本4月消費者物価指数
英4月小売売上高
独4月生産者物価指数

【前回のレビュー】FRBによる金融引き締めスタンスに変化はなく、一方で、日銀の緩和姿勢も継続する見通しで、ドル円は底堅い動きとなろう。ドル円はテクニカル面での過熱感や株安によるリスク回避の円買いの動きなどは警戒される中、ドル円は高値圏でもみ合いながら上値を追う展開になるとした。

【米消費者物価指数は予想を上回る】

- 11日に発表された4月の米消費者物価指数は前年比+8.3%となり、前月の+8.5%からは鈍化したものの、事前予想の+8.1%を上回った。コア前年比+6.

2%となり、前回の+6.5%から鈍化したものの、事前予想の++6.0%を上回った。

米消費者物価指数はそろそろピークアウトの兆しが見えるのではないかと市場の期待もあったが、そうした動きとはならなかった。予想から上振れしたことで、米10年債利回りは2.94%近辺から一時3.07%前後まで上昇、ドル円は129円台後半から130.81近辺まで上昇した。

ただ、その動きは長くは続かなかった。インフレ率の高止まりを受けて、米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的に金融引き締めに向くと警戒感が広がり、11日の米国株は大幅安となった。NYダウは326ドル安、ナスダックは3.18%安となった。通貨市場ではリスク回避のドル買い円買いの動きとなった。11日のNY市場では一時129円台半ばまで下落して、129円台後半で引けた。米10年債利回りは2.92%前後に低下した。

12日には一段とリスク回避の動きが進んで、ドル円は一時127.50台まで下落した。米10年債利回りも2.84%前後まで低下している。金融引き締めへの警戒感が株価の上値を抑え、リスク回避のドル買い円買いにつながっている。また、米国債も買われて米債利回りは低下している。

このところ、FRB当局者からは今後数回の会合で、0.50%の利上げに前向きな発言が相次いでいる。こうした発言を受けて、今後2回の会合で0.50%ずつの利上げについては、FRB当局者の間では既定の事実という状況になりつつある。

CME FEDウォッチでは、6月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は85%前後、0.75%の利上げ確率が15%前後に達している。7月のFOMCでの0.50%の利上げ確率は80%前後、0.75%の利上げ確率が16%前後に達している。利上げに前向きな姿勢が継続されており、一部では0.75%の利上げを見込む向きもあり、株式市場はリスク回避の動きが鮮明になりつつある。

ドル円は3月4日の安値114.65から5月9日の高値131.35まで16円以上もの大幅な上昇を見せてきた。今回の上昇局面でサポートとなってきたボリンジャーバンド+1σを割り込むとともに、21日線も一時下抜いた。これまでの上昇に対する修正安を見せている。米国をはじめとして各国の株安が続くようならリスク回避のドル買い円買いの動きとなって、ドル円は上値の重い展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、126.00～130.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に米5月NY連銀製造業景気指数、米3月対米証券投資、17日に米4月小売売上高、米4月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本第1四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本3月鉱工業生産指数、米4月住宅着工・許可件数、19日に日本4月貿易収支、日本3月機械受注高、米新規失業保険申請件数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月中古住宅販売件数、米4月景気先行指数、20日に日本4月消費者物価指数などがある。

【ユーロドルは下落基調で推移か】

FRBによる積極的な金融引き締めが警戒される中、各国の株安を受けてリスク回避のドル買い円買いの動きがみられる。こうした中、ユーロドルは1.05台を中心とするもみ合いが続いてきたものの、1.05ドルをしっかりと割り込んで、1.03台まで下落している。

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、11日の講演で量的緩和策を7～9月期の早い時期に終了して、その後数週間で利上げを行う可能性があるとの見解を示した。ラガルド総裁が7月21日のECB理事会での利上げを支持する見解を示したとの見方が広がっている。

ユーロ圏の消費者物価指数は確報値ベースで、昨年12月の+5.0%、今年1月が+5.1%、2月が+5.9%、3月が+7.4%と大きく上昇している。こうしたインフレ率の高進を抑制するためにECBも利上げに向くと見方が広がっている。

ただ、米国株の大幅な下げを受けてのリスク回避のドル買い円買いの動きを受けて、ユーロドルは上値を抑えられやすいとみられる。このところは米国株の中でもナスダックとユーロドルの連動性が高まっており、米国株の下落基調が続く間はユーロドルも軟調な流れが継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0100～1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高、ユーロ圏3月貿易収支、カナダ3月製造業出荷、カナダ3月卸売上高、17日に英4月雇用統計、ユーロ圏第1四半期域内総生産（GDP）改定値、18日に英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、ユーロ圏4月消費者物価指数、カナダ4月消費者物価指数、19日にNZ第1四半期生産者物価指数、豪4月雇用統計、ユーロ圏3月経常収支、カナダ4月鉱工業製品価格、20日にNZ4月貿易収支、英4月小売売上高、独4月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。